



こども食堂の現状 & 困りごとアンケート結果

vol.3

-
- 回答期限 : 9.20(日)～9.28(月)
- 回答者 : 各地の「こども食堂の地域ネットワーク」および「こども食堂ネットワーク」とつながるこども食堂(むすびえの「地域ネットワークメーリングリスト」と「こども食堂ネットワークのメーリングリスト」から回答を呼びかけ)
- 回答数 : 39都道府県342団体
- 実施 : NPO 法人全国こども食堂支援センター・むすびえ、こども食堂ネットワーク
-

過去の「こども食堂の現状&困りごとアンケート」調査結果は、
以下にまとまっています。

第1回 4月13日～17日実施

https://musubie.org/wp/wp-content/uploads/2020/04/musubie_Q_sheet_0423.pdf

第2回 6月19日～25日実施

https://musubie.org/wp/wp-content/uploads/2020/07/musubie_Q2_sheet_0713.pdf

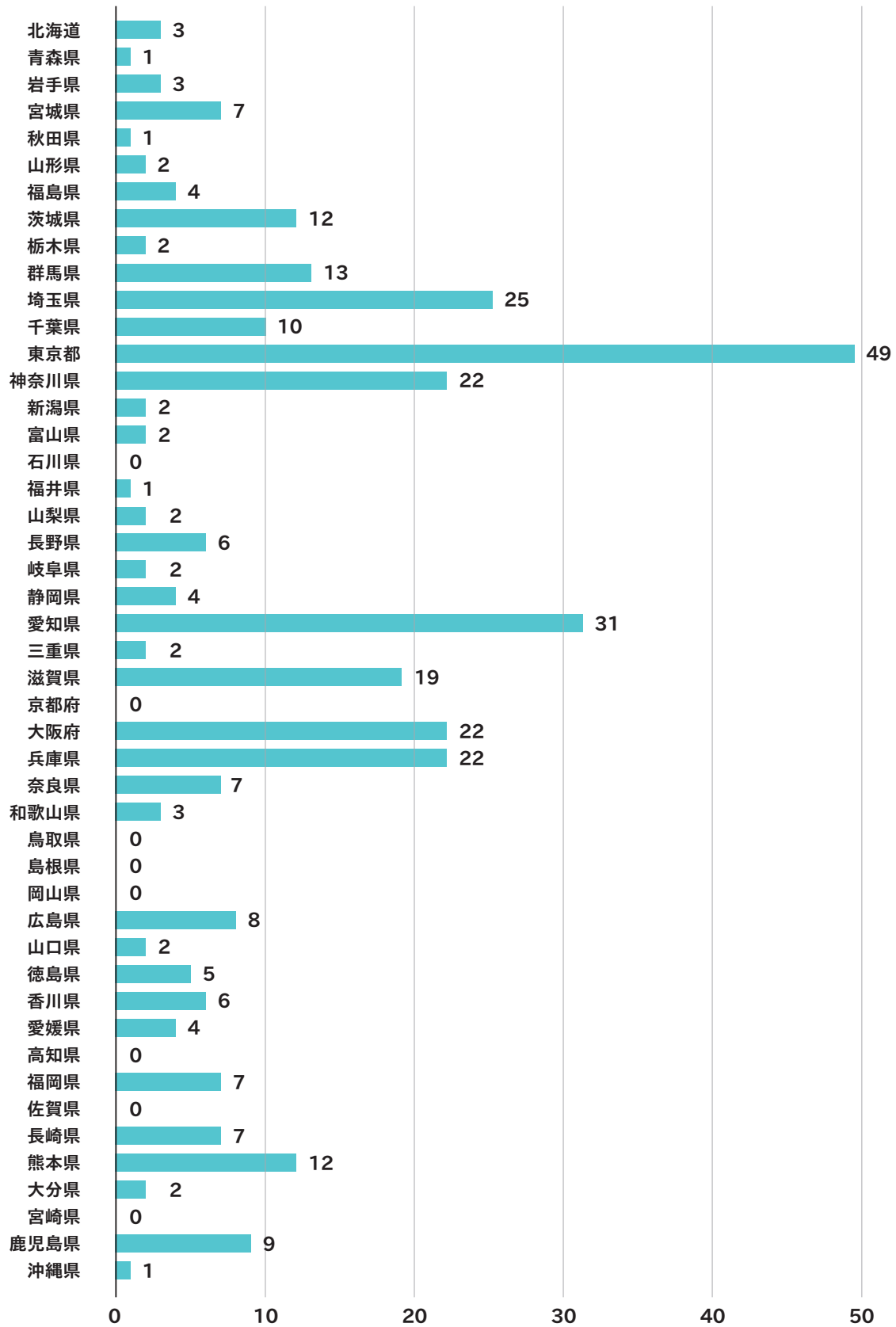
第1部

こども食堂の現状 &
困りごとアンケート結果

vol.3

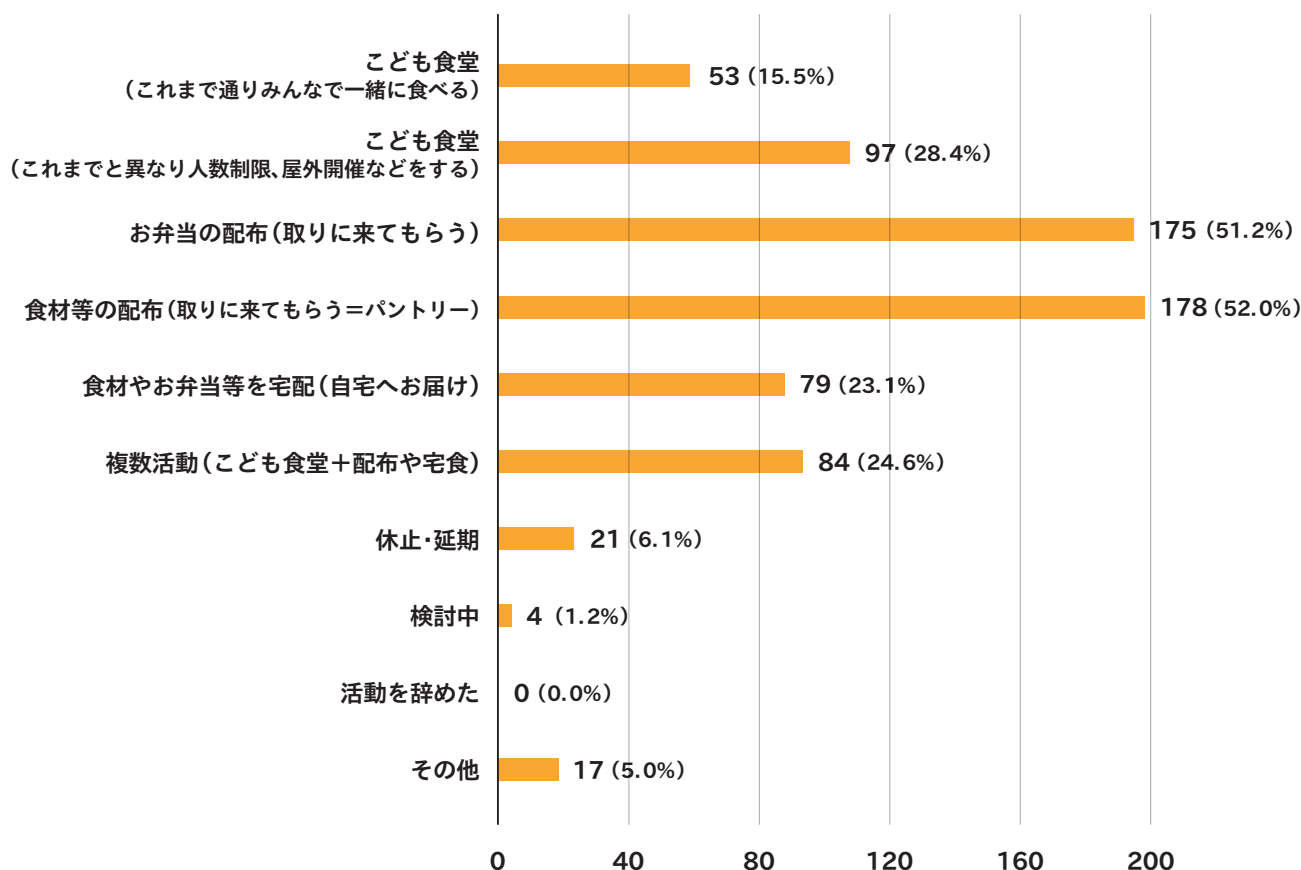
都道府県別の回答した子ども食堂の数

単位:軒 回答数=342



1 こども食堂の開催状況(9月現在)

単位:軒 ※複数回答可



アンケートからわかること

6月の同内容と比べると、こども食堂の開催は「これまで通り」「これまでと異なる形」とともに増加傾向にある。しかし、7、8月の新型コロナウイルスの全国的な感染拡大によって、やはり活動の中心は「お弁当の配布」や「食材等の配布(=パントリー)」になっている。

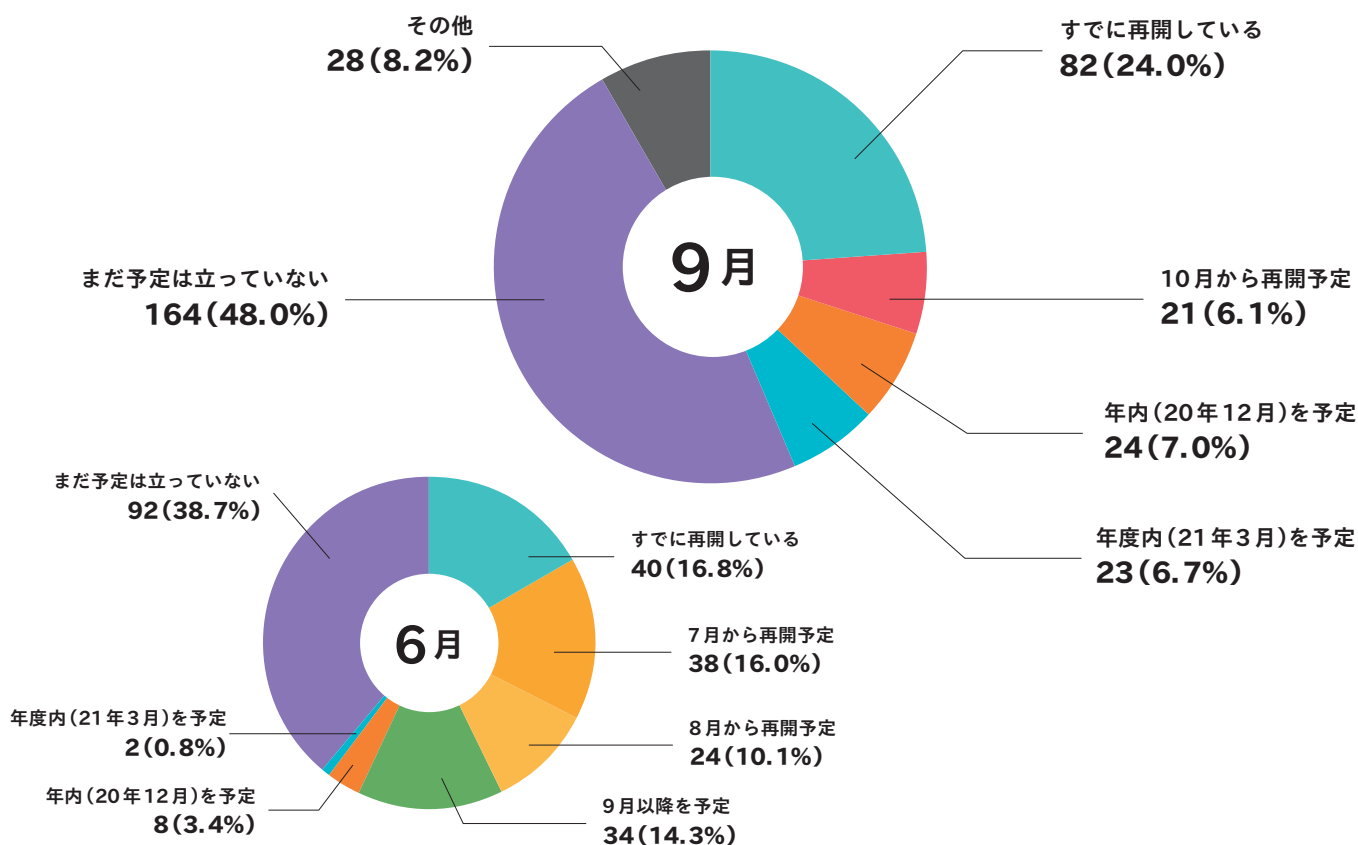
「こども食堂」+「お弁当や食材等の配布・宅配」の活動を両立して続ける団体も84軒(24.6%)と、6月(50軒、21.0%)に比べると増加している。

「その他」の活動としては、「こどもたちとの文通事業、個別相談(メール・電話・面談)」「オンラインでのイベント」「学習支援」などがある。

※この質問は複数回答が可能のため、現在のこども食堂の開催状況については、次頁の「すでに再開している」を参照してください。

2 一堂に会してのこども食堂の再開時期

単位:軒



アンケートからわかること

・9月時点の一堂に会してのこども食堂の開催は、24.0%。10月から再開(6.1%)を合わせると、10月現在では3割ほどの開催状況となっている。

・6月時点の「予定」と比べると、7、8月の新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、再開が難しくなっているところも多い。「予定が立たない」は、6月時点の38.7%から48.0%へと増えている。

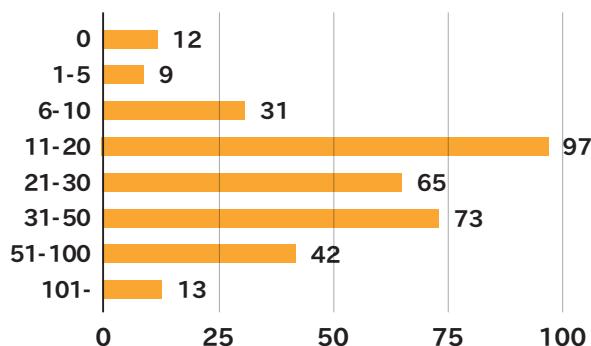
・「7月に感染症対策を講じて再開しましたが、8月に市中において新たなコロナ感染陽性者がでたため9月はフードパントリーに変更しました」「6月は開催できましたが、7月8月は不可、9月は今のところOKという状況です」といったように、感染状況に応じて開催(方法)を決めているところも見られた。

・再開時期について「コロナ終息次第」「コロナの治療薬、予防薬ができてから」といった声も散見された。

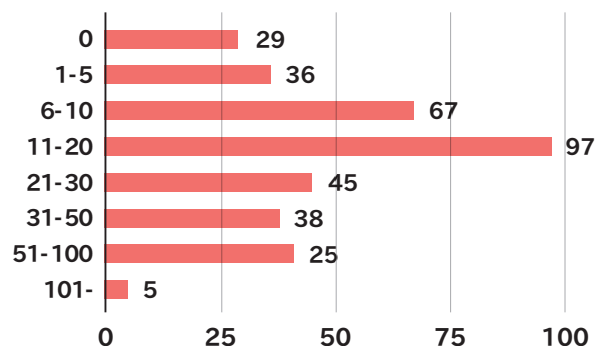
3 こども食堂の参加人数

単位:軒

●子どもの参加人数



●大人の参加人数

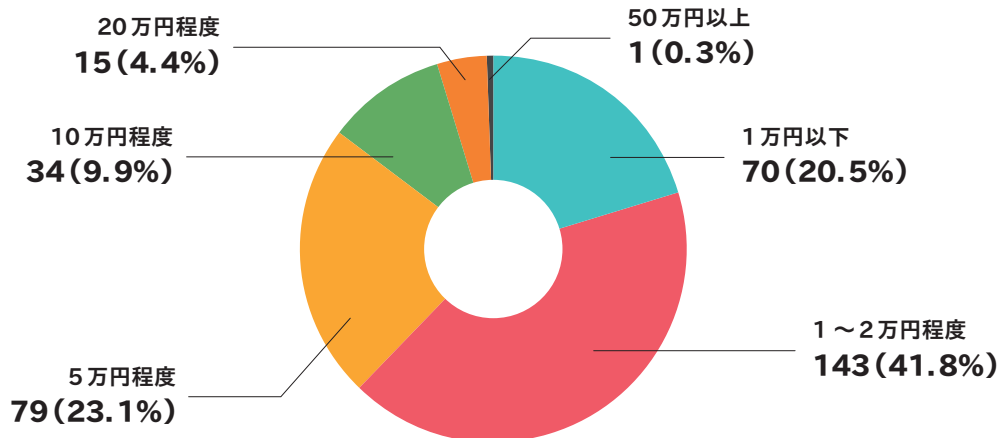


アンケートからわかること

現在のこども食堂の参加人数の平均は、子ども36.2人、大人23.2人だった。

4 こども食堂の活動費用(月額)

単位:軒

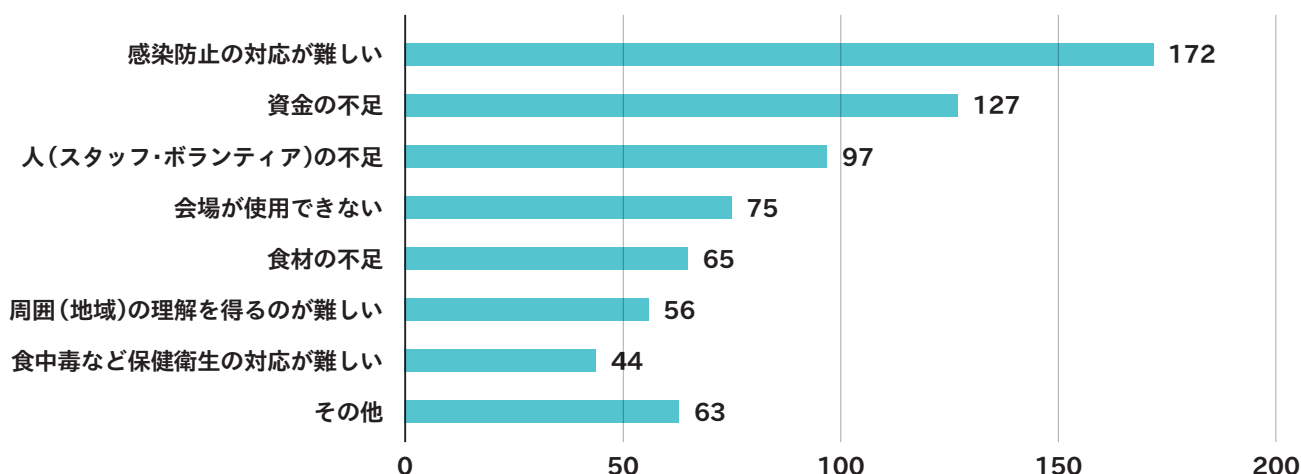


アンケートからわかること

- ・こども食堂の活動費用は月額1~2万円程度が41.8%といちばん多く、2万円程度以下で62.3%、5万円程度以下で85.4%にのぼる。
- ・ただし、これは「一堂に会する形でのこども食堂の活動費用」であり、フードパントリーやお弁当配布となると、数倍の費用がかかることが報告されている。

5 こども食堂での困りごと

単位:軒 ※複数回答可



その他(一部抜粋)

- ・コロナ禍でこれまでの活動以上の対応が多くなり、また新規事業の立ち上げもあり、人材と時間の不足が深刻化しています。
- ・親子で集まり食事をするという活動に再び理解が得られる状況かの判断を見極めている。
- ・密集を避けるには会場が狭いため、利用者制限をせざるを得ないことが心苦しい。
- ・食材を一時保管する場所が足りない。
- ・感染防止というよりリスクを許容して本来必要とする人の為の活動をする。その為に全ての関係者に説明と理解を得ていく必要がある。
- ・生活応援物資の配送もしているが、必要とする人の数がどんどん増えている。
- ・子ども食堂とは別に1人親家族食料支援を2年前からしていますが食料が集まらなくなり、困っています。
- ・小規模なので以前と変わりなく運営していますが、パーティション、手洗い、消毒などの対策をしても不安がなくなることはありません。
- ・支援の必要な子どもの把握ができない。学校の協力が得られない。

アンケートからわかること

- ・6月と同様、「感染対策」がいちばんの困りごとになっている。対策をつくしても「不安」があるという声が少なくない。
- ・会場が使用できないのは、特に公的施設(公民館等)が多い。また、会場は借りられるものの、人数制限や会場内でのソーシャルディスタンスの確保に苦労されている。
- ・食材の保管場所、特に冷蔵庫が無くて困っているという声も見られた。
- ・コロナ以外では、「必要としている人に情報を届ける方法」などアウトリーチや告知方法に苦心されている声があった。

6 困りごとの具体例 (自由筆記)

はじめに

人に喩えて言うと、疲れが体の芯に達しつつある——全国のこども食堂から寄せられた「困りごと」を通読した感想を一言でいうと、そうなります。

ヒト(ボランティア)・モノ(場所)・カネ(資金)という活動の基本3要素すべてにわたる困り感を抱えているこども食堂が増えました。活動のベースが揺らいできている印象を受けます。がんばって活動を続けてきたが、そろそろ厳しい、というため息が聞こえてくるようです。

人と人のつながりを通じて地域のにぎわいを作り出してきたこども食堂という灯火が、withコロナの長期化の中で細っていくことがないよう、一人ひとりが自分にできることを考えられればと思います。

むすびえ理事長 湯浅誠

感染症対策 その1:再開が難しい

ウィズコロナが長期化する中で、再開のメドが立たないという声が第2回アンケート(6月実施)よりも増えました。自由記述欄にも、それに関連する声が多く出ていました。垣間見えるのは、民間ボランティア活動が感染症の発生リスクを背負いきることの「限界」です。子どもや利用者は再開を待っている。その場を必要とする人たちからしたら、こども食堂は保育園等と並ぶ暮らしに不可欠な(エッセンシャルな)場です。しかし世間には「勝手に、好きでやっている」と、不要不急の人数会食と同列に見ている人もいます。このギャップを自分たちで背負い切らないといけないというプレッシャーが、こども食堂の運営者を苦しめています。

○どうやっても、感染するときはする。この事実が現実になったとき、ただのボランティア団体にはなんの保証も後ろ盾もないので、ただ批判などに晒されるだけで誰も助けてはくれない。それがわかっているだけに、踏み出すのはリスクが大きすぎる。今までの信用や好印象をぶっ潰すことになるから。少なくとも帯広市では、こども食堂ぜひ必要だから、やってください!などという人はいないにもかかわらず「勝手にやっていること」という認識なのだから。大多数の市民は、行政の後ろ盾がない、支援がないということは、市民活動は容易に潰れる。コロナ禍でボランティア活動の限界を感じざるを得ないのが現実だ。(北海道)

○通常の食堂に来ていた子どももお弁当をやれない状況もあり、「みんなで一緒に食べたい」との声があり、再開したいですが、秋、冬の感染状況をみて対応を判断することにしています。(宮城県)

○一同に会してのこども食堂をどの段階で始められるのか、判断が難しい。(埼玉県)

○万が一クラスターが発生したときに、誰からも守ってもらえないのではとの不安が常にあります。(埼玉県)

6 困りごとの具体例

○子どもからは、早く再開してほしいと希望は出ているが、スタッフの合意がなかなか得られない、また、各家庭でも、なかなか食堂に集まらない。(東京都)

○どのような基準で、一堂に会してのこども食堂を再開したら良いかわからない。(東京都)

○コロナ対策で責任の所在が問題になる。地域活動がすべてストップしている中で(地方なので)こども食堂だけ再開することが難しい。(滋賀県)

○通常の「こども食堂」では「3密」が避けがたい。「遊び」「対面食事」等(大阪府)

○大都市のベッドタウンで活動しているため、感染者数がやはり障害になります。市内で、今もクラスターが二ヵ所発生しています。夏休み以降も濃厚接触者に該当する児童、生徒が近隣の学校にも在籍して、学年閉鎖や学校閉鎖が行われている。お弁当配布は、回を重ねて安全に行えるようになってきましたが、一斉に会してのこども食堂の開催は、かなりの決断が必要です。(兵庫県)

○もし何かあった時地域からの理解を得るのが難しい。交流活動を再開したいという思いはありますが、会場は狭く感染対策ができません。もし何かあったら今後こども食堂の開催が難しくなるように思います。(広島県)

○先が見えなくて、これからの活動の方向性が分からなくなっています。(熊本県)

感染症対策 その2:再開しても…

一堂に会する形での居場所を再開しても、感染症対策に関する悩みはついて回ります。政策化されていないこども食堂のような取組みには、明確な基準(ガイドライン)がありません。これまで「政策化されていないがゆえの自由度の高さ」を強みに普及してきたこども食堂ですが、コロナ禍は、感染症対策をどこまで徹底すべきかという「自由ゆえの苦しみ」を運営者につきつけています。わからないから休止なのか、わからないながらも再開するのか、休止か再開かは結果としては正反対ですが、「わからなさ」に対する悩みはどちらにも共通しており、見かけほどには違わないのが実態です。

○これまで地域のプラットフォームとして活動してきたが、コロナ禍以降も参加希望者、協力団体、ボランティア等ニーズが非常に多い中でその声に応えきれっていないのが現状である。(福島県)

○感染防止策が本当に正しいか、わたくしたちの施設でどこまですれば十分かわからないまま手探りでやっています。やれることをやっていますが、少し不安です。お弁当での食中毒には配慮していますが、どのように召し上がっているのか心配です。(群馬県)

6 困りごとの具体例

○コロナ禍に伴い、保護者の方と来ることができる子は少し増えてきましたが、子どもだけで来ていた小学生の方たちがほとんど来ていない。子どもだけで参加していた層が、多分保護者の方の意向もあって来ることができていないのだと思う。(埼玉県)

○感染予防はやっていますが、地域の公共施設もストップした状態で、毎回100人前後の食堂をどうやっていくべきか考えています。(埼玉県)

○今までは毎週いただいた食材で約60食分を作り、ピュッフェ方式で皆で食べてました。現在はテイクアウトをメインにしているため、特に衛生面や食中毒対策に注力しております。出来上がったものを十分冷やして配布するなど、しているため、全てのメニューを作るには時間が足りず、今までお世話になった業者などから既製品を購入することもあります。(埼玉県)

○未だコロナウィルスの終息が見えない為、感染防止に努めてはいるが、不安材料は多すぎます。(埼玉県)

○食卓を囲んで実施したいが、感染防止の決定的な対策が見当たりません。基本的にはお弁当で対応していますが野外でも食卓を囲める場所がありながら、お持ち帰りの方が圧倒的に多い。(埼玉県)

○感染対策をして人数制限、時間入れ替えでカタチを変えて開催していますが、どうやっても常に感染源となってしまうのではないかと、という不安がつきまとう中で行っています。(東京都)

○感染防止は一通り行っても不安は払しょくできません。(東京都)

○お弁当テイクアウトを始めてから需要が増え、対面式の開催時より参加人数がかなり増えました。対面時は40名前後でしたが、テイクアウトにしてからは70名前後の方にお弁当を配布しています。対面式に切り替えると、人数も制限しなくてはいけなく、入れ替え制にしても、20名ほどしか食事が提供できなくなります。そうすると、対面式に切り替える事が本当に地域のニーズに合っているのか、判断がつかなく、悩んでいます。対面式とテイクアウトを同時に開催するのはマンパワー的にも資金的にも無理があり、参加者を少なくするしか手がない状況です。(東京都)

○感染防止対策は行っているが、弁当配布後、子どもたちが外で集団でマスクを着けずに遊んでいる光景を見て、どこまで責任を取るべきかが難しい。配布までが事業であるが、見守るべきと思うので、マスクをつけるよう声掛けはしている。(東京都)

○3密に気を付けると、みんなでワイワイにならない。(神奈川県)

○こども食堂の魅力(楽しさ)を維持しつつ、何をどこまで対策をすれば良いのか。会食の形に戻すタイミングは？ など、明確な基準がないので毎回悩みながら実施しています。(滋賀県)

○コロナ感染者がいない地域です。感染するのは仕方ないという気持ちと、第一のコロナ感染者になりたくない。たくさんの方がそんな気持ちです。だから、怖がって家から出ない人や、話もしない人が大人にいます。こども食堂をしてはいけない、という声はありませんが、こども食堂へ行っておいで、と言う親が少ない現実

6 困りごとの具体例

だと思えます。私たちスタッフも、こども食堂しているよ、とは言えますが、おいで、と誘うことはできにくい状態です。今は三密にならないこと、手洗いの徹底、手指の消毒、体温を測っていただくなど感染防止に、徹底しています。気をつけて気をつけて、していますが、やっぱり怖いです。きっと私も笑顔が少なくなっているように思います。笑顔で明るく取り組みたいと努力しています。(奈良県)

○分散型で時間帯を3分割し、1回に10人程度で実施していますが、三密を避けると交流や対話ができません。(和歌山県)

○地域食堂として、多世代の交流を目的に実施してきており、地域を挙げての取組により、多い時は300人を超えることもあった。しかし感染防止対策で、間隔を置いて、話をしない、交流しない、ということをお願いされると、目的を達成することができない。特に、参加者が多く、感染防止対策のために、人数制限をすることはできないし、多くの人に対応した感染対策も難しい。(山口県)

○会場での食事を再開すると子どもでも高齢者でもつつい近くでおしゃべりして食べてしまう。厳正なるコロナ対策はとれないのが心配。(愛媛県)

資金面

主に食材・弁当配布の活動を継続している人たちから、資金面に関する悲鳴が上がっています。食材・弁当配布等の活動には、一堂に会する形での従来のこども食堂に比べて、数倍の費用がかかります。これまで「資金がなければ、ないなりに」と、寄付の野菜等を活用しながら低予算でやりくりしていたこども食堂にとっては、この費用負担は重い。しかし、コロナ禍で大変な思いをしている子どもや家庭が見えていて、その期待も感じているだけに止めるわけにもいかない、という中での苦しみです。

○主に野菜やカレーのルー等の食材費と、使い捨てのニトリル手袋・マスク・キッチンペーパー・ペーパータオル・アルコール消毒液等の衛生管理費や指定ゴミ袋・ナイロン袋・割りばし等の消耗品費、会場使用料、イベント保険料等で、通常の食堂が開催できれば「こども100円、おとな300円」の食事代収入で8割程度賄える予定ですが、無料配布のフードパントリーのみでは早晚経費をカバーできなくなります。また、町の規模が小さいため1人でもコロナ陽性者がでると町の空気が一変し、大勢が一堂に会して食事をする場の提供は理解を得にくい状況です。(北海道)

○パントリー事業にシフトしたことによる弁当容器代、宅配料、数量増加で費用が高んでいる。(宮城県)

○無料での食材配布を10回行ってます。各企業様・個人様からのご支援はありますが、食堂を開いた方が、経費は掛かりません。が、調理室を含め無料でお借りしてた場所がコロナのせいで使用不可。今月からほかの施

6 困りごとの具体例

設で調理室を借りて、お弁当配布も行っていますが、使用料がかかってしまいます。補助金や助成金の申請に、事務能力不足で出来かねています。(宮城県)

○食堂開催にあたっての参加者が倍になり材料購入品が高くなっている。(山形県)

○以前、経費になかったアルコールやなどの消耗品や形態を変えての取り組みにより経費の負担が大きい。(山形県)

○弁当の買い上げをしていくと、毎回予算をオーバーしてしまう。(茨城県)

○弁当は地元の飲食店にお願いしているが、500円では利益が出ず、期間が長引き、甘えてられない状況になっている。(東京都)

○弁当40食を一度に出すので、米があつという間になくなる。(東京都)

○お弁当配布やキッチンカーをお願いして開催しているが、低額で提供するために団体が負担するため、負担額が団体の活動を圧迫している。また、この形で開催してみると、みんなで食べる形の時に利用していた層とは違う層の利用が多く、このニーズが高い事がわかった。これまでの、2～3倍の利用数となっているが、ニーズに応えようとすると、団体負担が大きくなるといったなんとも悩ましい現状がある。(神奈川県)

○事業者の弁当配布を低額で行うために、原価との差額の負担が、数が増えるほど大きくなる。多世代交流が一番の目的であるので会食とこうりが出来にくいのが課題。(神奈川県)

○シングルの方の経済状況をお聞きするが資金不足のため、月に一度のお弁当とその時ご寄付いただいた食料品の配布しかできない。配布するお弁当の数も増やしたい。困窮家庭の子どもへのお弁当の宅配も現在10食なので資金があればもっとお届けできる人数や回数を増やしたい。(富山県)

○利用される方が右肩上がりが増える一方、資金調達に苦戦しています。どの助成金をいただくにもたくさんの書類を送って結果待ち。いただけるかそうでないかで計画が全てムダになる事も。心が折れそうです。(福井県)

○使い捨て容器を使用することによりコストが余計にかかる。(愛知県)

○フードパントリーの形であり用意する数が多いので、資金が定例の時よりも3～4倍かかる。(愛知県)

○食堂再開までお弁当を提供することにしているが、お弁当パック代が想像以上にかかっている。(愛知県)

○食材を調達する資金の不足。これまで食堂に来ていなかった層(仕事を失ったり、言葉や文化の違いで生活に困難を抱えている外国人世帯)との出会いがあった。こども食堂というより大人が食材を求めてきている面もある。それはそれで支援が必要だと思うが、うちの団体がすべきことなのか? という思いもある。(愛知県)

○コロナ対策に資金が必要で運営上、苦しいです。(滋賀県)

6 困りごとの具体例

○企業様からなどの寄贈でフードパントリー方式を取り入れながら、食品の配布、食堂の献立をしています。しかしながら、栄養面を考えた時、生鮮3品、乳製品などを購入しなければいけません。今夏のように野菜の高騰などがありますと、予算組みも難しいと考え、自宅から持ち込んだりしてしのいでいました。(大阪府)

○・資金の不足—お弁当配布に変えた。助成金だけでは賅えないので、補填のため出金。／・人の不足—活動場所に来てご飯を食べる子どもは、個別の課題をもつので、それに対応するために、もう1日、2日開催し、対応するには、スタッフが必要。／・感染防止—スタッフも、来る子どもの家族も、高齢者や、持病のある家族がいる事。症状の無い感染者がいることについて、安心して一堂に、会することは、できない。(大阪府)

○栄養価の高い食事にはお肉の提供をしたいのですが、100食以上となると高額になり大変困っています。7月、8月、9月はジョンソンヴィルさんから支援いただきましたが、10月以降のお肉の仕入れに悩んでいます。(大阪府)

○ボランティアさんにせめて交通費は支払いたいが、食材でせいっぱい。(兵庫県)

○現在、コロナ渦の中でお弁当配布とフードパントリーでこども食堂を開催しています。毎週金曜日に開催していて、食数も毎回増えてきていますので食材提供をして下さる企業さんや団体さんとのつながりが出来たら助かります。(兵庫県)

○三密を回避するために、今までは週1回だったところ、週3回と回数を増やし、人数制限をしておやつ食堂を開催しています。会場費とスタッフ確保がたいへんです。(奈良県)

○野菜が高騰し、なかなか作れるメニューが限られています。野菜をたくさん使ったメニューにしたいのですが、難しいです。もう少し、自由に使える資金があると臨機応変に対応できかなと感じます。(奈良県)

○コロナ対策も厳しく、こども食堂の醍醐味である食卓の団らんを守り抜くために飛沫防止シールドを導入しましたが、1セットが2万円代のため、他のこども食堂が購入できる金額まで販売価格を下げるための方法を思案しています。(福岡県)

○放課後デイケアに併設してこども食堂を開いているため、ボランティアを募集にしくく、希望して下さる方はいるが諸事情で長く続かない。多くは実際にたくさんの子どもの食事の準備が予想以上に大変なようである、それと放課後デイケアの会社が寄付以外の食材は購入していて年間2か所まで50万の負担になっている。しかし放置できない貧困家庭の子どもが多くやめることはできない。(長崎県)

場所

再開が難しい大きな理由の一つに場所の問題があります。こども食堂の多くは地域の公民館等の公共施設を利用してきましたが、公共施設では依然として飲食禁止の運用をしているところが少なくありません。ここでも、こども食堂がまだまだ人々の暮らしに不可欠なものではなく、不要不急の多数人数会食と同列に見られている様子がうかがわれます。また開催した場合でも、感染症対策を徹底しようとする、従来よりも広いスペースが必要になるといった事情もあります。自前の場所を確保したいという欲求はかつてなく高まっていますが、そのためには恒常的な運営資金を確保する必要があり、これも運営者の悩みの種です。

○開催場所での飲食、調理室使用禁止。(茨城県)

○公民館使用上の制約(感染防止)で既存の形でのこども食堂開催が難しい。(埼玉県)

○現在メンバー宅を備蓄場所としていますが開催直前は食材で溢れかえってしまいます。また冷凍庫や冷蔵庫を置く場所があればご寄付を受け取れる機会も増えるのですが会場(診療所)にはこれ以上物を置けそうもなく……悩ましいです。(埼玉県)

○大鍋を置くスペースがない。電気のブレーカーが落ちてしまう。(埼玉県)

○今現在、資金が不足しているわけではないが、第3波に備えてフードパントリー・お弁当配布体制の強化のため事務所兼倉庫を借りた。来年度も家賃が払い続けられる見通しがたっていない。(東京都)

○学習支援ができるマンションを探しているが受け入れてもらえない。理解不足。(東京都)

○会場が使用できないので、外で軽食を食べて頂いている状況です。今後寒くなってくるので、どうしたものかと考えながら、…。(東京都)

○場所の確保が難しい。コミュニティセンターなどは食事の提供がコロナの影響で許可されない。また、場所を貸してくれる申し出はあるが、近隣からの苦情があり難しいのが現状。(東京都)

○場所を借りての開催なので、感染防止対策が自分たちではできないため、本来の形のこども食堂はできていない。(東京都)

○活動拠点である公民館が「飲食・調理不可」となっています。「当面」とされていますが、判断基準が定かでなく、現状では、手の打ちようがありません(お金で解決できる問題ではありません)。(神奈川県)

6 困りごとの具体例

○狭い場所なので、三密回避しきれない状況の為、世代を超えての交流の場であることも食堂がいつ再開できるのか？(神奈川県)

○フードパントリーを続けるなかでわかってきた、ニーズが高い地域に学習支援&こども食堂をスタートする予定で準備をすすめています。しかし、開催場所が市営住宅の集会所のため、コロナの関係上、借用できない状況が続いています。スクールソーシャルワーカーさんからは、開催を期待する声をいただいている、必要性を強く感じていますが、場所を借用する関係上、地域の状況は無視できません。(愛知県)

○現在は、屋外(神社)で実施していますが、今後は日没が早いため、暗く寒くなるので、屋外での開催が難しいです。(滋賀県)

○会場としてお借りしている教会側も対応に苦慮されている様子です。気持ちは開催の方向にあっても、現実問題として施設利用によるクラスターの危険性など不安要素は山積みです。現在、他の開催場所も探しつつ新たな食堂の形態を模索中です。(兵庫県)

スタッフ、ボランティア

感染懸念がつきまとう中、ボランティアスタッフの確保に苦労しているこども食堂も少なくありません。感染症対策を徹底した活動には、ふだん以上のボランティアを要することも人手不足の一因です。

○こども食堂を開催する場所の確保が難しいのもそうなのですが、ボランティアの人数が減少しているのが一番の悩みです。(神奈川県)

○スタッフそれぞれにご家庭の事情がある。来場者に対する安全確保の認識にも差がある。団体として皆が安心し納得できる感染予防対策基準を確定するのが難しい。(神奈川県)

○感染症対策が大変だが、新規ボランティアを募集することもなかなか難しい。人手が足りない。しかし、コロナは近づいてきている。今週とうとうわが町でもクラスターが出て、以前うちにも来ていた子の母親が陽性と耳にした。海外出身者は頼れる親戚がない。情報も少ない。また、現在むすびえの助成でこどもの親の料理店からテイクアウトした料理を配送しているが、コロナ渦が本格的になり、4月よりも売り上げが減っているという。感染症がリアルになるにつれて、追い詰められてきている。疲れました。(神奈川県)

○ボランティアスタッフに対する衛生面の徹底(ルールの強要)も飲食店のように行き届かない。(長野県)

○通常80人程度参加していたため、同じ規模で子どもたちを受け入れるには入れ替わり制で開催しないといけない。でもそうすると、スタッフの時間が長くなるので負担が大きい。スタッフも交代制にするには人手が

6 困りごとの具体例

全く足りない。(大阪府)

○スタッフは感染リスクがあるにもかかわらず継続して活動してくれており、食材を取りに行くのも平日が多いのでシフト制で働いているスタッフが交代でガソリン代も自費で行っている。時間と労力、感染リスクに対して謝礼金をしっかり払いたい。(大阪府)

○大学がオンライン授業で、ボランティアにでかけることを勧めていない、ボランティア学が休講中で単位取得の必要がないなど、学生ボランティア不足。大学生もアルバイトがなくなり、生活が苦しく、大学生もこども食堂で無料で食べられるようにした。参加者となった。(徳島県)

その他

○2年前からこども食堂の他にひとり親家族食料支援を開催していますが、今現在、フードバンクさんから30家族以上の支援に対してお米を入れてダンボール8箱といった感じで物凄く困っています。当団体の利用者は15家族くらいが生活保護家族、20家族くらいは自力で頑張っているご家族です。コロナ以降生活保護を受けていないで必死で頑張っているご家族でまだコロナ前のような生活に戻っていないご家族も少なくないです。(神奈川県)

○食品配布をしているという自己満足であってはならない。困窮救済できているか。(東京都)

○こども食堂に対する社会の認知度が低い。対象者を経済的な困窮者と考えているらしく、利用しにくい雰囲気がある。また、真に必要な人(子ども)が利用していないように感じている。(東京都)

○①自治体のサポート ②偏見等の地域差があり、オーダーメイドで地域に合わせたリレーション作りが必要。(東京都)

○30分に一度の換気時間、特に夜間は窓を開けるため近隣住民に子どもたちの騒ぎ声が迷惑になっている可能性がある。子どもたち自身が対応を話し合っ、対策案を実行している。※子どもたちに我慢を強いることはさせたくなかった。(長野県)

○子供たちが、お弁当を受け取る短い時間の中でネットを利用し、交流をはかろうとしている。wi-fi環境が料金プランの安いものなので、会場内に集まって自由にネットを使ってもらうのには限界がある。ネット環境を整えたいが、今の状況では予算的に厳しい。(長野県)

○一堂に会する食事提供の再開を希望する声も高まっているが、限られたスペースで大勢の利用者(とくに子ども)を制御することは難しい。(岐阜県)

6 困りごとの具体例

○感染が増えてくると中止を考えなくてはいけないため、せっかくお願いして学校に置いて貰っていたチラシ配布を休止中。手作りの安全性も毎回考えお弁当を購入したりしています。(滋賀県)

○スクールカウンセラーや社会福祉協議会に相談するが情報が得られない。(兵庫県)

○フードパントリーで食材を取りに来られる方は、あまりお困りでない方が多く、ただなら貰わないと損よね、というのが正直なところです。本当にお困りの方にどうやって情報を届ければいいのか、食材を届ければいいのか、試行錯誤していますが、解決方法が分かりません。(兵庫県)

○町内での世話役が「こども食堂」=「貧困」と結び付けている。(徳島県)

○学校に案内をもっていくと、コロナを理由に、案内配布をやんわり断られます。子どもの居場所がもともたないうに、あそびばやおまつりもなく、結局イオンのゲーセンにわんさか、ガチャガチャコーナーにもわんさか、本末転倒です。(福岡県)

○学校が活動をあまりよく思っていない。(鹿児島県)

○子どもたち、お母さんたちをサポートしている私自身もサポート欲しいくらいになってます。(^^)(熊本県)

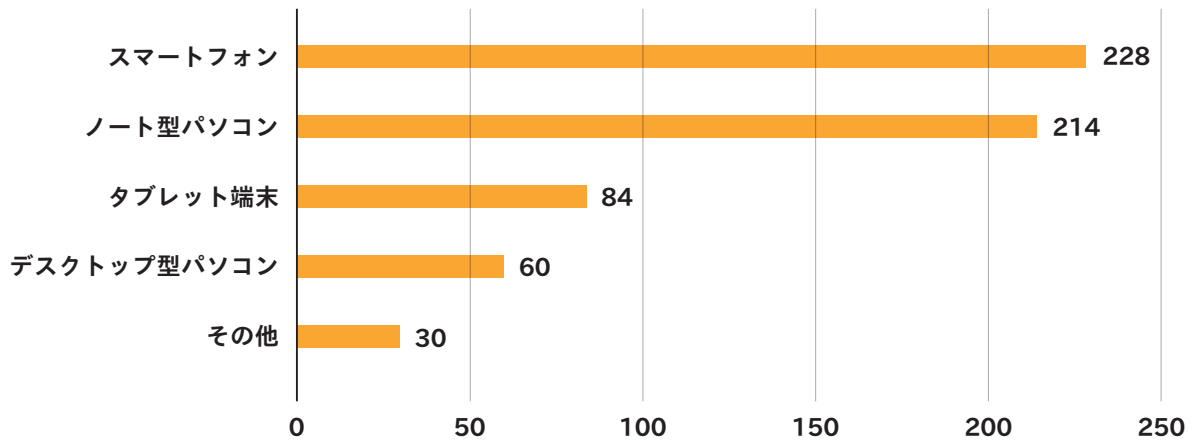
第2部

こども食堂の 「ITインフラ&イベント」 についての アンケート調査

むすびえでは、食材や資金だけでなく、こども食堂をインターネットでつなぐイベントなどコンテンツの提供についても行なっています。そこで、こども食堂のインターネット環境やイベント開催状況についても伺いました。それぞれ賛否もありますが、たくさんのご意見をいただいたのでここに紹介します。

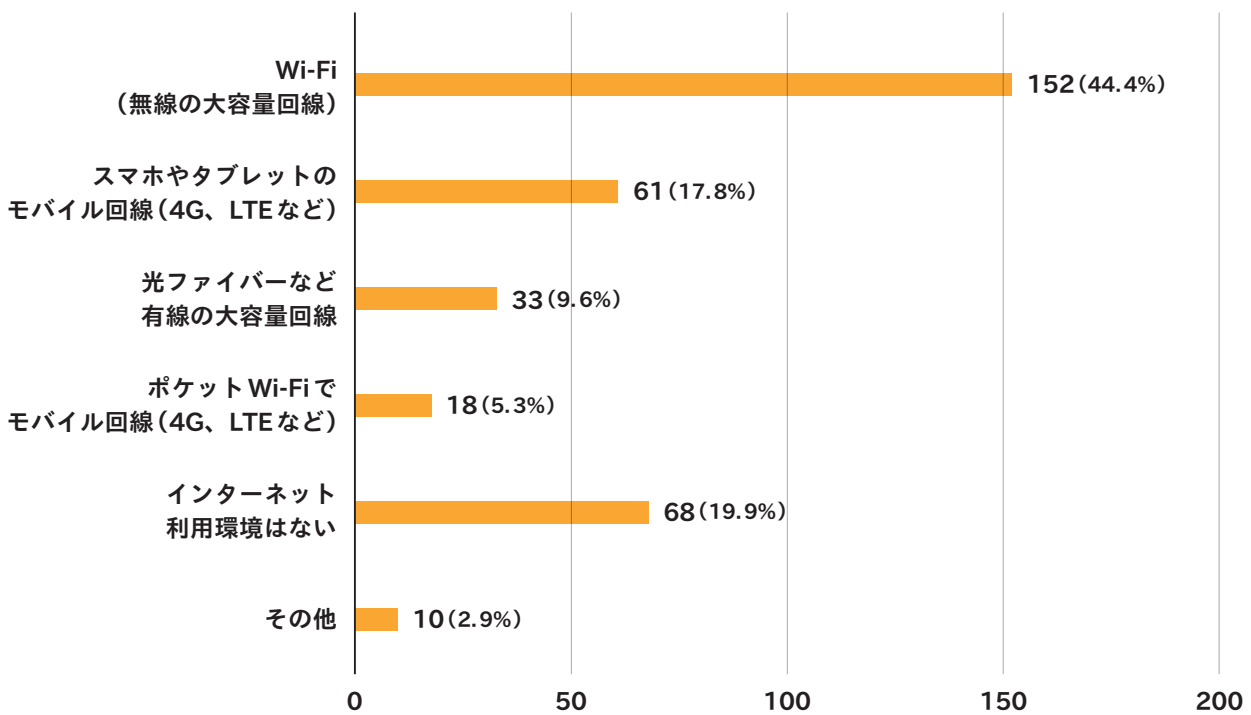
1 こども食堂にあるインターネット機器

単位:軒 ※複数回答可



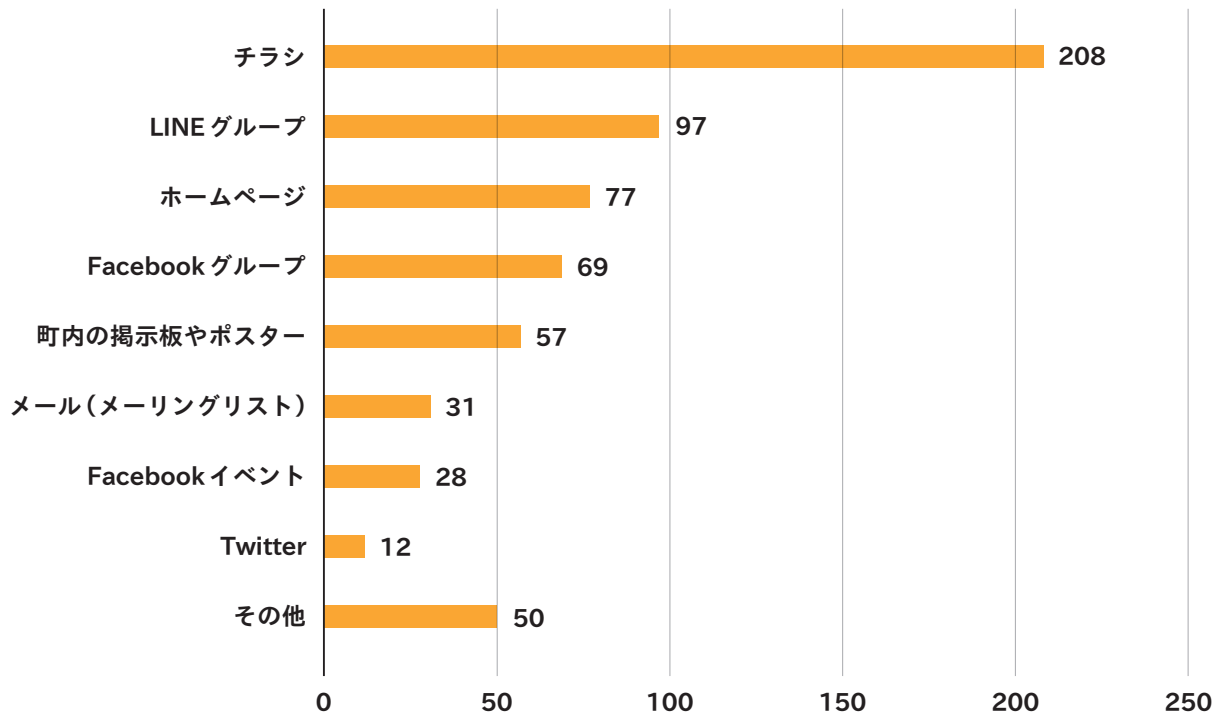
2 こども食堂のインターネット利用環境

単位:軒



3 開催情報などの主な連絡通知方法

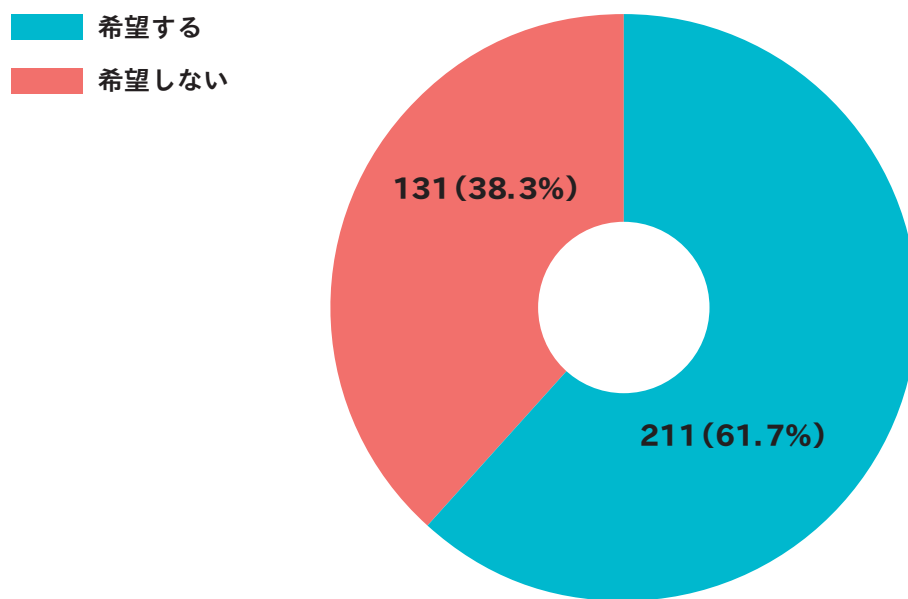
単位:軒 ※最大2つ選択可能



※その他は、「行政関係(HP・広報誌等)」「ロコミ」「インスタグラム」「学校経由」「電話」「手紙」「直接訪問」「地元の情報サイト・フリーペーパー」「FMラジオ」など

4 タブレット端末などIT 機材の支援について

単位:軒



5 IT 支援への意見や活用例について (自由筆記)

- ・子ども食堂や相談に足を運ばない方も、オンラインで相談できるようにしたいとおもっています。また、今後子どもたちの学習支援の機会を作りたいと考えているので、そのようなことにもうまく活用できないか検討中です。
- ・タブレットやパソコンが家庭でも利用できるよう、wifi 環境の家庭への完全普及が望まれる。
- ・フードパントリーの情報を拡散しても一般の希望者が少なく、認知度信用度の低さを痛感しております。Facebookなどの告知の仕方、希望者が声をあげやすい方法を知りたいです。
- ・オンラインで開催日や配達内容等をもっと多くの人達に伝えていきたいが、家庭にパソコンやスマートフォンが無い事が障害になっている。
- ・zoomで、スタッフへの連絡、意見交換など行いたいと思いますが年配スタッフには難しいかと思って悩んでいました。LINEも活用していない方もおります。
- ・パソコンが不得手なので、情報を知ってもらえるツールとして、必須だが、パソコンの前で何時間も挑戦しているが出来ない、わからない。
- ・地域5市の12の子ども食堂がLINEグループでつながっています。緩いつながりですが、情報を共有でき助かっています。
- ・LINE@ 導入してから、参加者の方への告知や、事前予約などがスムーズになりました。双方コミュニケーションも取れるので、食事の感想や励ましのメッセージもいただいています。
- ・食堂にゲーム機を持ち込む子たちがちらほら見えています。お母さんが認めているのですが、私たちはできるだけゲームをしないように働きかけています。子どもがゲームに取りつかれるのは当然のことでこれにどう対処するかが課題です。一方で、食堂再開時には速報的にLINEを使えたらと考えています。できるだけ密にならないように状況や待ち時間を伝えるなど活用したいと考えています。
- ・インスタライブを利用した子供達へ向けた悩み相談の募集をライブ配信しています。
- ・タブレットなどの導入についてご支援いただける場合でも、その後のランニングコスト(通信料全般)の負担が大きくなりそうで、なかなか導入に踏み切れません。
- ・オンラインの活用はこれから必要になると思いますが、リアルな活動が大事だと思っています。リアルで行える工夫が必要だと思っています。
- ・先日のカゴメさんのイベントでは、小学校2~4年生の子どもたちがクイズに夢中になっていました。内容はもう少し小さい子ども向きでしたが、参加型・インタラクティブなやり取りが楽しかったようです。
- ・学習支援の大学生のコロナ感染も心配の1つです。タブレットで支援出来れば、回数、時間など設定が広がる。

5 IT支援への意見や活用例について

また、勉強だけでなくダンスや歌など初心者ならおけいこもできると思います。

・こども食堂とは別に、無料学習支援を行なっています。現在はコロナで休止中です。オンラインで個別に指導を継続しようとしていますが、子どもの家庭の状況がスマホのみであることから（タブレット、パソコンは無く、Wi-Fi環境も無い）とても難しい状況です。

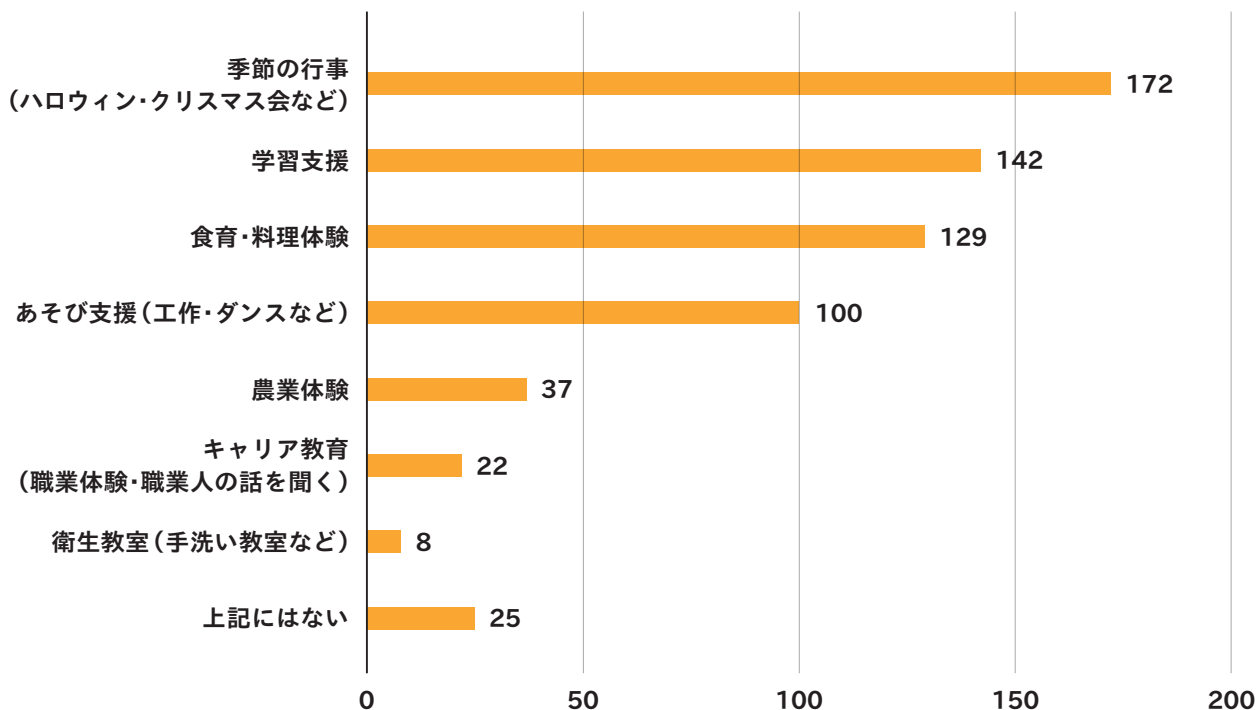
・例に挙げられているもの（zoomの使い方、Amazonほしい物リストの作り方、facebookグループの立ち上げ方、LINEオープンチャットの使い方）はほとんど分からないので、どのようなツールがあるか、皆さんがどのように活用しているのか知りたいです。

・逆に子どもたちが、ネット漬け、ゲーム漬けでめがあわず、心配です。トラブルも多発しています。子どもたちのプライバシー保護、発達補償の観点からも、啓発が必要です。

・関連しているNPOの寄付でタブレットを使えるようにして、IT環境のほとんどない家庭の子どもに将来的な不利を少しでもなくなるように配慮しているが十分な数が確保できない

6 こども食堂で行なっている（行ないたい）イベントについて

単位：軒 ※最大2つ選択可能



7 こども食堂で行なうイベントについて (自由筆記)

・「野菜って何?」「ホットケーキって何?食べたことない」という子供がいるのが現実。格差社会がますます加速している。すでに社会全体で子供を育てなければならない時代になっている。楽しく、みんなで食材について、調理について、教える、伝える機会が必要だ。

・絵本の読み聞かせや手作り紙芝居では幼児と保護者が多く、折り紙や紙飛行機づくり指導、将棋教室、脳トレコーナーでは小中学生が楽しんでいます。警察の協力により管楽器演奏・警察官ミニ制服の着用&パトカー試乗体験、家族への手紙、マスコットキャラクターとのふれ合い写真撮影等のほか、大人向けには、ハンドマッサージ等を行っています。

・現在行っているのはフリーマーケット。出品物を寄付してもらい地域にも呼びかけ、収益は資金にしている。こどもたちの楽しみのひとつになっている。

・クリスマス会は毎年行っています。ケーキを食べる、プレゼントをもらう、サンタの格好をした人を見たことがある、小さな体験の積み重ねが子どもたちには必要だといつも感じています。

・性のお話会は保護者ともに反響が大きく何度かに分けて開催しています。コロナ渦で望まない妊娠の話題、休校に伴いYouTubeなどの情報過多により、子供達へ自分や友達、家族を大切にすることを学ぶ機会としています。

・保護者から声で、夏休み中に早朝ラジオ体操の要望で毎年実施している。

・朝日新聞社様からの「おしごと年鑑」が届き、学習支援にも来ている子どもたちに見せたところ大反響です。地域の人から「私の仕事」を話してもらう取り組みや、農業体験もさせたいです。

・地域の防災士に来ていただいて災害時の対策などのお話を伺いましたが、子ども達はとても熱心に参加し、防災グッズの準備をしようと言っていました。

・意識していることは「子どもを真ん中に地域の人と人を繋げていく」こと。こども食堂の運営者が主催するイベントだけでなく、地域の学校や、大人達、高校生、大学生、留学生、ケアカラウンなどなど…こども食堂に興味関心のある方を担い手の輪の中に引き込む仕掛けとして、様々なイベントを開催しています。

・食育で、お出汁教室をやりました。鰹節を削り、自分の好きな具を選んで、オリジナルお味噌汁を作ったのですが、子ども達は削り鰹をパクパク食べ、お味噌汁を何杯もお代わりして、本当の出汁の美味しさに感動していました。

・けん玉教室をやりました。やった事がない子供も多くとても興味を持って参加してくれました。毎回やることにより上達する楽しみを味わってもらえた事が嬉しく思えた。

・戦争体験をお話いただき、その後、すいとんと焼き芋を食べるイベントを行なった。具だくさんのすいとんにしたため、美味しいと好評だったが、子どもたちに当時のままのすいを食べてもらえる機会を再度設けたい。

7 こども食堂で行なうイベントについて

- ・大学生のスタッフとの話や遊びがとても楽しそうです。
- ・昨年の台風で甚大な被害を受けた地域で災害ボランティアのための炊き出しを中高生、若者と共に行った。人の役に立てたと彼らの自信に繋がった。今後も社会と繋がる行動を積極的に取り入れたい。
- ・コロナで学校行事の中止など、「楽しみにしていたことが無くなる」ことが多い中、こども食堂の中で、近所のイベント好きの方の協力でかき氷（多くのシロップ、タピオカやフルーツトッピング）がとても喜び、噴水が出るプール状のもので水遊びし大はしゃぎしたことが良かった。
- ・4年前の開催時にはたくさんのイベントをやってきたがコロナ渦のなか、無理してする必要は感じていない。大切なのは定期的に子ども食堂を開催し続けることで、イベントはイベント好きなイベント者がすれば良いと思う。
- ・郷土料理をつくる体験や焼き芋を焼く前の準備からの体験など、ただ食べるだけでなく、作るところから体験すると興味津々、すごく楽しそうで達成感がある様。食農体験をやりたい。
- ・昨年の夏、野菜提供者の畑にお邪魔して、ジャガイモ掘り体験やイチジク畑の見学をしました。お土産にナスなどもいただき、子どもたちは喜んでいました。今年の夏は養鰻業の見学を予定していましたが、コロナのために実現できませんでした。
- ・クリスマス会ではケーキ作りをします（各家庭で1ホール用意して飾りつけをして持ち帰ります）。
- ・餅つきをお米を蒸すところからやりました。木臼で子どもたちが一生懸命ついてくれる。おいしいお餅ができました。今年もやろうと思っています。
- ・必ずしも何かさせる（する）場所ばかりでなくてもいいのではないのでしょうか。ただみんなであつたかくごはんが食べられる場所でも。なんだか最近、それだけではいけないような雰囲気違和感を感じます。
- ・以前「走り方教室」を行ったときは、たくさんの参加でした。
- ・うどん・そば打ち体験、魚をおろしてつみれ汁などは未就学児親子に喜ばれました。また都市型農園を取材し、旬のお野菜を自分たちで収穫、調理してみんなで食べる取り組みも小学生に好評でした。中高生対象の学習支援では、1人で作れるレシピで一人ずつ料理に挑戦してもらいたいです。
- ・コロナで学習量が増え、しんどい子どももいると聞いて、ダンス講習会を考えています。勉強が遅れることばかり気にして、子どもの置かれている状況を見ていなかったと反省しています。子ども達の好奇心を呼び起こす支援も学習支援になると考え始めています。
- ・プログラミング教室プロジェクトを立ち上げ、カリキュラムの整備を数か月間かけて行い、5月下旬より、月5回（うち2回はウェブ）開催中であるが、これまで学習習慣が乏しかった、勉強嫌い、あるいは勉強が苦手でじっと椅子に5分と座っていられなかった多くの子ども達を大きく刺激し、劇的に学習意欲の改善が図れ、意

7 こども食堂で行なうイベントについて

欲向上や5教科の成績向上に大きく貢献している。

・コロナ禍で祭りなどのイベントの中止が相次ぐ中、プチ夏祭りとして、ヨーヨー釣りや、スーパーボールすくいなど、人数制限をしながらの開催でしたが、子ども達は楽しむ事ができたと思います。工作など子ども達が興味を持つ活動がもっとできればいいなと思います。

・川や海、山、市街地散策など自然や地域と一緒に出れば、なにも準備しなくても、子どもたちは面白い遊びを考え出し、年齢を超えて繋がりが生まれている。

・夏休み宿題応援講座(習字、絵、工作)好評でした。ケーキ作り講座、ミニラグビー教室、もちつきも盛況でした。

・留学生との交流により海外に興味・関心を持ち、英語学習を開催することに。しかし、交流していた留学生が祖国に帰ったり、コロナの影響で開催できておらず。再開できると良いな～。芸術・文化鑑賞ができたらと考えますが、資金に課題。

・ボードゲームで学ぶ、金銭ゲームが親子共に評判が良いです。

・地域の達人の中には、科学遊びの先生、マジックする住職、落語をする学童の先生、竹ボックリ作りの名人などがおられて、そういう人材に出会ってイベントを考えるという形になっています。この会が長く続くために、どんなイベントにしても、開催の準備が負担を感じない程度でボランティアスタッフも楽しめるように考えています。

本アンケートは、
三菱商事株式会社様からのご支援により
実施いたしました。